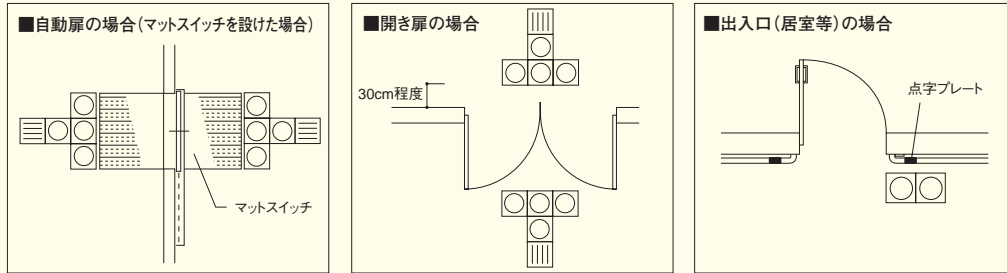


SGタイル敷設例

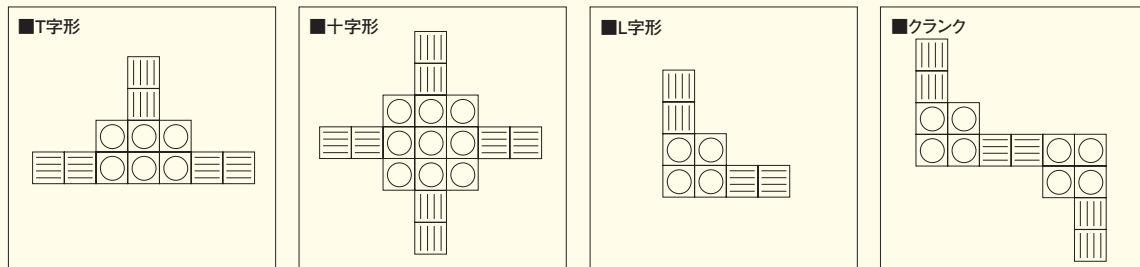
床材の適切な敷設が、視覚障がい者の認識性と安全性を高めます。

視覚障がい者が歩行する際の認知を確実にするために、誘導用ブロック・タイル等の突起形状と配列がJIS T 9251により規定されています。

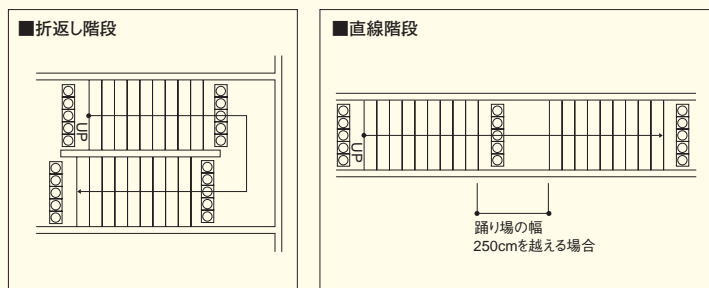
[1] 出入口付近での設置例



[2] 経路分岐点の標準的な設置例 (30cm×30cm)

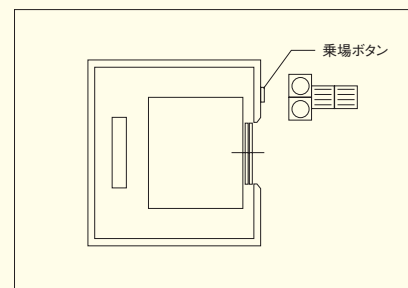


[3] 階段での設置例



- 視覚障がい者が手すり付近を歩く際にも踏み外さないよう、階段の幅いっぱいに敷設する。
- 直線階段の場合、踏み場の幅が250cmを越える場合は、点状ブロックを敷設する。

[4] エレベータホールでの設置例



- 点状ブロックは乗場ボタンの中心にくるように敷設する。

※ ○ は点状・≡ は線状を表します。

出典)「東京都福祉のまちづくり条例施設整備マニュアル(2019年度版)」



20FL1522 (フロアリウム マーブルNW・365頁)/TT351